

2-4 リスク比較における基本的な注意

市民団体や地域住民等が不安を感じているリスクの質や程度について行政や企業等が説明する際には、適切な例を挙げて比較して説明することが有効です。

しかし、比較例が適切でないと、かえって責任逃れに感じられて反発され、対立を深めてしまいます。

米国化学工業協会の「工場長のためのマニュアル」では、リスクコミュニケーションにおけるリスクの比較例としての受け入れられやすさを表I-4のように示しています。

たとえば、表中のC. については、「ある市の平均的なダイオキシン類の曝露量で推算したリスクから焼却施設近くの個人のリスクをそれほど大きなリスクではない」と説明したり、「死因の約30%はがんであり、人の一生のうちの全ての原因での発がんリスクは数分の1もあるので、それに比べればこの工場から排出されるベンゼンの発がんリスクは極めて小さい」というようなことを言っても受け入れられにくいということです。

表I-4 リスク比較の受け入れられやすさ

ランク	比較対照	例	
A. 受け入れられる	時期の違う同じ種類の比較	古い設備と新しい設備のリスクの比較	
	基準との比較	環境基準や排出基準などとの比較	
	異なるリスク評価結果の比較	異なる団体で評価されたリスクの範囲	
B. 受け入れられやすい	何もしない場合と何かした場合との比較	排ガス処理施設を設置した場合と設置しなかった場合のリスクの比較	
	他の対策を行った場合との比較	代替りの化学物質を使った場合のリスクとの比較	
	他の場所での同じリスクの事例との比較	他の場所にある既存設備のリスクとの比較	
C. 受け入れられにくい	平均リスクと最大リスクとの比較	平均的リスクと特定場所でのリスクの比較	
	一つの汚染源と全ての原因による同質のリスクの比較	特定の発生源による発がんリスクと全ての原因による発がんリスクとの比較	
D. かなり受け入れられにくい	リスクと費用との比較	対策費用とリスク削減効果との比較	
	リスクと便益との比較	ある物質を使う利益とリスクとの比較	
	職業リスクとの比較	工場内従業員の発がん率と周辺住民の発がん率との比較	
	同じ発生源からの他のリスクとの比較	ある工場の排ガスによるリスクと廃棄物によるリスクとの比較	
	同じ病気を起こす他の原因のリスクとの比較	排ガスによる発がんリスクとX線による発がんリスクとの比較	
	E. 受け入れられない	全く関係のないリスクとの比較	食中毒や台風で死亡するリスクと排ガスによる発がんリスクとの比較

出典：V.T.Covello et al, Risk communication, risk statistics and risk comparisons : A manual for plant managers, Chemical Manufactures Association, Washington, D.C., 1988